



サプライズゲスト「白神ねぎのん」と記念撮影

昭和・平成・令和 3種の定植方法を初体験

青年部

市立向能代小学校5年生児童58人は、能代市農業技術センターの実験農場で、能代市ねぎ課職員と青年部（佐藤一樹部長）部員ら15人が講師役を務めネギの定植作業体験学習を行いました。

簡易移植機「ひっぱり君」と手植え体験をした後、青年部員が「昭和の手植え作業」、「平成の簡易移植機」「令和の全自動移植機」です。」と紹介し、最新型の全自動移植機のエンジンを始動させると、児童らは「お〜」と歓声を上げ、全自動移植機が定植を始めると「令和スゲ〜」とその機械の動きに目を輝かせていました。

同校ではネギの収穫期まで「白神ねぎ」について探求学習し、初めての収穫体験学習も計画しています。



一苗一苗手植えにも挑戦

「食」と「農業」の大切さを、育てることから学ぼう！ 女性部能代支部、生活課

女性部能代支部（佐々木博子部長）は、市立湊城西小学校5年生児童を対象に農業体験学習を開催しました。

同部では農業体験学習を年4回計画し、1回目を4月に開催する予定でしたが、コロナ禍の影響で開催出来ませんでした。事態が収束し児童たちが登校出来るようになったとき、いつでも農作業体験学習を再開させるため、ジャガイモの定植作業などを行うなど準備してきました。

児童らにとっては初となる農業体験学習もコロナ感染拡大防止対策のため、2班に分けての開催となりましたが、好天にも恵まれ、ほ場に児童らの笑い声が戻ってきました。

ひっぱり君に初挑戦する



さつまいもの苗を定植



畝立て機を慎重に操作する男子児童と丁寧に肥料を播く女子児童

新ブランド立上げ!?浅ネギ定植

営農企画課・生活課

市立浅内小学校5年生児童17人は、総合的な学習の時間で地元の特産の野菜を栽培しようとネギの定植作業に挑戦。

学区内で「白神ねぎ」を栽培する(株)あさかわファーム伊藤隆一代表取締役と、JA営農指導員が講師を務め、同校裏の畑で行われた定植作業は、畝立て機を使った畝立てから定植作業まで全て児童自らが行いました。全行程を手掛けるのは、10月に開催予定の学習発表会で、学校関係者や保護者らに、同校名にちなんで「浅ネギ」と名付け販売する目的があるためです。

児童は協力し合いながら、自らが作った畝周りを1時間ほどできれいな緑色に染めました。